



OTC(Over The Counter) 点眼薬について

医療費が毎年増え続け、サービスを支えるための負担と受けることのできるサービスのバランスが悪くなっています。現役世代は、年々上昇する社会保険料の負担に苦しみ、提供される医療サービスも少しずつ抑えられ、バランスを保つように国は対策をしてきましたが、根本的な人口構造があり、皆に円満な解決策は現状で見いだせていません。参議院選挙前に日本維新の会から、政策提言として医療費削減のために、**OTC薬（ドラッグストアで購入できる薬）**の種類を増やすことで、保険診療の適応から外すという提案がありました。

今すでにあるOTC点眼薬の種類を以下に
列举します。



- | | |
|----------------|------------------|
| * 眼精疲労用点眼 | (すでに処方薬と同レベルの効能) |
| * ドライアイ点眼 | (処方薬にしかないものもある) |
| * アレルギー用点眼 | (使用できる成分に制限あり) |
| * 結膜炎・ものもらい点眼 | (使用できる成分に制限あり) |
| * コンタクトレンズ関連点眼 | (処方薬にはない) |
| * 清涼感タイプの点眼 | (処方薬にはない) |

主な6種類のジャンルを上げましたが、この中で、処方薬と同じ成分のものに切り替えても問題なさそうなのは、アレルギー用点眼と結膜炎・ものもらい用点眼でしょうか。

ただ、なかなか自己診断、薬剤師のアドバイスのしにくさがあり、目が赤いだけで判断し、悪化して受診ということでもかえって初動が遅れて、重症化するということもあるかもしれません。結果、余計に医療費がかかるということもあるでしょう。

世の中の流れで、今後OTC領域が拡大しそうな雰囲気ですが、医療費削減、医療費の適正化ということにどこまで寄与するかは、不確かな部分が多いと思います。